

牧小だより



心ゆたかに たくましく 生きぬく子

歴史がつなぐ今(思いやる心が今につながる)

校長 古川 正浩

平成10年から続いている「すいせん交流」で、5・6年生の児童が福井市の越廼小学校に行ってきました。平成9年1月2日未明、島根県隠岐島沖の日本海で発生したナホトカ号重油流出事故の影響で、日本海は、重油で一面覆われました。その危機的状況を少しでも手伝えることはないかとボランティアに立ち上がった安八町の皆様。そのおかげで、少しずつ海はきれいになりました。このことがご縁で、安八町と越廼村の交流が始まりました。牧小学校が、交流の中心となり今に続いています。今年度は、越廼小学校へお伺いし、全校児童のお出迎えを受け、下は3年生の児童から学校紹介をしてもらうなど、温かいお出迎えをいただきました。岐阜県にはない海に入り、その後は、日本海を一望できる温泉や昼食会場でのもてなしもいただきました。「困った時こそ、寄り添ってくださる方のありがたさ」、そして、その思いを途切れることなく受け継ぎ育ていただけた先輩方に感謝の思いでいっぱいになりました。これからも大切にしていきたい活動となりました。



牧の生きた教育(心ゆたかに たくましく 生き抜く子)

牧地区の素晴らしさは、地域・家庭の教育力であると確信しています。コミュニティースクール・区長会・PTA・子供会・牧の子育て隊など様々な方々が、「子供達のために」と温かく見守り、育てていただけていることに心より感謝いたします。このように地域の皆様の温かい見守りの中で、児童が相手を思いやり温かい心を育てている一端を見ることができましたのでご紹介いたします。



先日の下校時、地域のおばあさんが道で倒れてみえたのを発見した児童たちが、安全サポーターをしていただいていた渡辺様に助けを求め、学校に助けを求めに走ってきてくれました。近くにおみえであった保護者様のご協力を得て、ご自宅までお送りすることができました。「困っている人がいたら進んで助ける」を姿行動で示してくれました。さすが「牧の子」と実感し、誇らしく思いました。ナホトカ号事故のボランティアの精神が、今の子供たちにも受け継がれているのだと思いました。心より感謝いたします。今後とも児童の成長のためにご協力いただけますようお願いいたします。

一歩踏み出す勇氣と立ち止まる勇氣

牧小学校の児童はみな心優しく、思いやりをもって行動できる子たちです。変化の少ない少人数の集団での生活であることから、大人数の中でも一歩踏み出せる自分づくりをしていきたいと願い、自分に自信を持てるように、「自己有用感」を育むために「チャレンジ宣言」等に取り組んでもらっています。どんな場面でも自分の足で一歩踏み出せる勇氣と自信を育てていきたいと思います。

反面、インターネットが普及し、児童が日常生活の一部として膨大な情報に触れるようになり、不特定多数にかかわるSNSを利用することが増えてきました。学校でもネットモラル等の指導をしておりますが、すべてを防ぐことはできません。書き込み閲覧するにあたって、一歩立ち止まることの大切さを指導しています。夏休みは、児童だけで過ごす時間が増え、インターネットでのコミュニケーションをとることも十分に考えられますので、ご家庭での約束を十分にいただけてほしいと思います。お金の請求・児童誘拐・友達とのSNSトラブルなど様々な危険がすぐそばにあります。わが子を守るのには、保護者の皆様です。よろしく願いいたします。